

●
目次

要約とまとめ	2
第I章 プロローグ：若者の保守化とは	4
第II章 政治に対する関心	6
1. サンプルの生徒たち	6
2. 性格は保守的か	8
3. 政治に満足しているか	10
4. 日本をどう見るか	12
5. 10年後の日本	16
第III章 マスメディアとの接触	20
1. 世の中のことを知っているか	20
2. 社会を知るのに頼りにするもの	24
3. テレビについての評価	26
4. ナウさとオッサンレのイメージ	29
第IV章 自己像と関連して	34
1. 使っているものは固定しているか	34
2. どんな自己像を持っているのか	37
3. どんな高校生になりたいか	45
第V章 エピローグ：保守化をめぐるのメモランダム	50
1. フィーリング感覚を越えて	50
2. 若者論の流れの中で	52
3. 同質化社会のもろさ	53
資料1 調査票見本	57
資料2 基礎集計表	71

※おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとは一切関係ありません。

要約とまとめ



① 将来の進路

「むずかしい大学」への入学はむずかしいかもしれないが、4分の3はなんらかの形で進学したいと思っている。(P.7図2)

② 保守的か

自分は保守的と認めた生徒は2割だったが、「保守的でない」と、はっきり否定した生徒も14.9%と15%にとどまっている。つまり、少なくとも保守的であることを否定していない生徒が85%に達する。(P.9表1)

③ 政治に満足しているか

満足している生徒は11.0%で、満足していない者がその4倍にあたる41.2%を占める。なお、わからないと答えた者が47.8%と、ほぼ半数に達した。つまり、ほぼ半数の者が政治に無関心という結果である。(P.11図5)

④ 投票に行くか

選挙権を持つようになったら投票をするか

について、「投票に行くつもり」の生徒は6割弱で、無関心層が多い割にはとりあえず投票しようと思っている者の比率が高い。(P.11図6)

⑤ 日本という国

豊かで、平和な国だと思うが、政治はお金で動き(80.4%)、努力が実らない国だと思う(67.1%)。(P.13図8)

⑥ 10年後の日本

土地は値下がりせず(85.9%)、税金はどんどん高くなり(84.5%)、外国との対立が激しくなるだろう(61.7%)。(P.16図10)

⑦ 10年後の暮らし

おたがいに無関心で、ひとりぼっちの人がふえてくると思う。(P.18図11)

⑧ 社会についての知識

アキノ、GNP、円高などを知っている者

が3～4割。そして、少しなら知っている者がほぼ4割を占める。くわしくは知らないが、ちょっとは知っているという者が多い。(P.22表7)

⑨ 社会についての情報の入手先

なんといってもテレビや新聞だが、そうしたマスメディアの情報は信頼できるという。(P.25図14)

⑩ テレビについての評価

くだらないことに大き過ぎることもあるが(45.2%)、世の中のことを知らせてくれるので役立つ(82.8%)。(P.26図15)

⑪ 人々のイメージ

マスメディアを通じてであろうか、
 ナウさ＝マドンナ
 オッシャレー＝松任谷由実
 元気印＝ビートたけしや明石家さんま
 最低＝おニャン子クラブ、本田美奈子
 こうしたイメージを生徒たちは共有している。蛇足ながら、土井たか子は元気印、阪神タイガースは最低というイメージだった。(P.30表11)

⑫ 自己像

まじめに授業を聞き(53.9%)、音楽好きの(57.1%)、きちんとした生徒だと思う。(P.38表16)

⑬ タイプ

政治や経済にくわしいとは思っていないが(74.8%)、音楽だけは好きだ(61.6%)という。(P.43表18)

⑭ どんな高校生になりたいか

BGMをうまく活用でき、しゃれた喫茶店を知っていて、DCブランドなどにも通じている生徒になりたい。(P.46表20)

まとめ

若者の間にフィーリング感覚にこだわる傾向が目につく。それが現在を大事にし、自分の環境を変えたくないという気持ちと重なり、保守的な行動のスタイルとなる。

そして、生徒たちは予想していたよりも社会の動きに通じてはいたが、論理よりも感覚を優先させている。

もちろん感覚的な生き方が悪いというつもりはないが、感覚と同時にもう少し論理の世界に生きる側面も持ってほしいと思った。

〔調査概要〕

対象●東京都、宮城県の4高校の
 1～3年生
 期間●昭和62年10月～11月
 方法●学校通しによる質問紙調査

サンプル数 (人)

学年 性別	1年	2年	3年	小計
男子	597	381	215	1,193
女子	713	514	252	1,479
小計	1,310	895	467	2,672

第I章 プロローグ:若者の保守化とは



研究会の席上、誰がいうともなく、「若者の保守化」をとりあげようということになった。イメージとして共感できるテーマなので、異議を唱える人はいなかった。

しかし、テーマを確定してからが難行した。「保守化」という言葉の意味をとらえにくいのである。というより「保守化」と名づけられそうな現象をいくつもあげることはできるのだが、現象が多方面に及んでいて、一義的にとらえにくい。

これまでのとらえ方に従うなら、保守化を政治を軸として、把握する場合が多い。ステレオタイプな言い方になるが、自民=保守、社会、公明、共産、民社=革新が、もっともなじみ深いものであろう。

そして、なんとなく現状打破のカラーが強くなるにつれて、民社、公明、社会、共産の

順で、革新度が増加するという理解のしかたである。そうした形で保守と革新とを対比させ、政治をとらえるアプローチは、かつての社会をイメージに置くと理解しやすい。

しかし、残念ながらこの10年来、そうした軸の妥当性、あるいは、説明力が低下している。価値観が多様化し、政治的な対応が直線的な感で処理しにくくなった。

具体例をあげるなら、米の自由化、あるいは税の見直し、そして、高齢化社会への対応など、どれをとりあげても、政党によって対応のしかたにそれぞれの個性があり、少なくとも保守——革新のみでは説明できないのがわかる。

そうした意味で、保守化を政治的(political)な観点のみでとらえるのは現実的でない。しかし、生徒たちを見ていると、保守化と名づ

けたくなるような行動傾向が認められるのはたしかであろう。

それだけに、行動面での保守化をどうとらえるのが重要になる。生徒たちの中で自発的に何かをしようという動きに乏しい。あるいは、社会のことはむろんのことだが、学校のことにも無関心で、自分のことだけを考えようとしている。そして、友だちの意見に敏感で、自分が孤立化するのを嫌がり、大勢に順応したがる。あるいは、まじめさを軽視し、軽くふるまうのがシャレていると思うなどが具体例となろう。

したがって、自分の身の回りを中心に変化を嫌がり、現状がそのまま持続していくのを好む。つまり、安定志向が保守化の本体なのかもしれない。

もちろん、そうした安定志向が政治面に結びつくと、現政権への支持ともなろうが、保

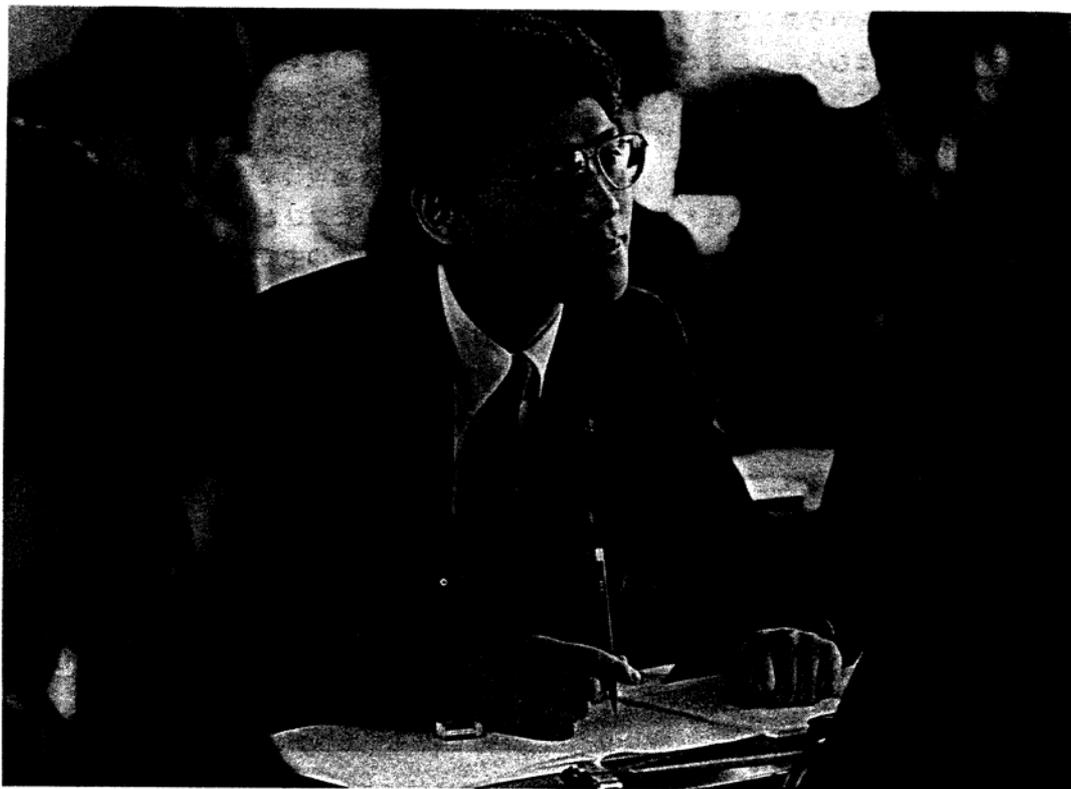
守化をもう少し幅を広くとり、現状維持、あるいは安定を好む生活スタイルととらえてみたいと思う。

そう考えると、モラトリアムから始まって、オブローモフ、さらにトランスポゾン、そして新人類へといたる若者論の系譜も若者の安定志向をとらえたものとすれば理解しやすくなる。

考えてみると現代の子どもたちは、生まれてこのかた、なにひとつ不自由することなく、満ち足りた環境の中で育ってきた。そして、そうした環境を好ましく思える。そうだとすれば安定が続くのを好き、変化を嫌うのは当然の心の動きともなろう。

そうした観点に立って、高校生たちの保守化が世間的にいわれているようなのかどうかを、たしかめようとしたのが、本報告書である。

第II章 政治に対する関心



1. サンプルの生徒たち

「保守化」についての考察に入る前に、調査に協力してくれた生徒たちのプロフィールについて紹介しておこう。

図1に示したように、生徒たちは毎日2時間ぐらいテレビをみて、そして、時折、マンガ雑誌を手にし、レコードに耳を傾ける生活を送っている。しかし、あまり勉強好きではなく、帰宅後勉強している者は半数をやや上回る程度にとどまっている。

そして、将来の進路として、むずかしい大学への進学は困難なのかもしれないが、せめ

て大学へは入学したいと思っている者が過半数を占める(図2)。そして、就職予定の者は1割を上回る程度にとどまっている。

したがって図1～2を手がかりにすると、今回の調査サンプルはとびぬけて勉強好きではないが、かといって、怠けている生徒でもなく、ほぼ標準的な生徒たちといえよう。なお、生徒たちの部活動への所属はほぼ6割で、そのうちのほぼ半数は運動部に積極的に参加している感じである(図3)。

図1 生徒たちの日常の暮らし方

—音楽を友として—

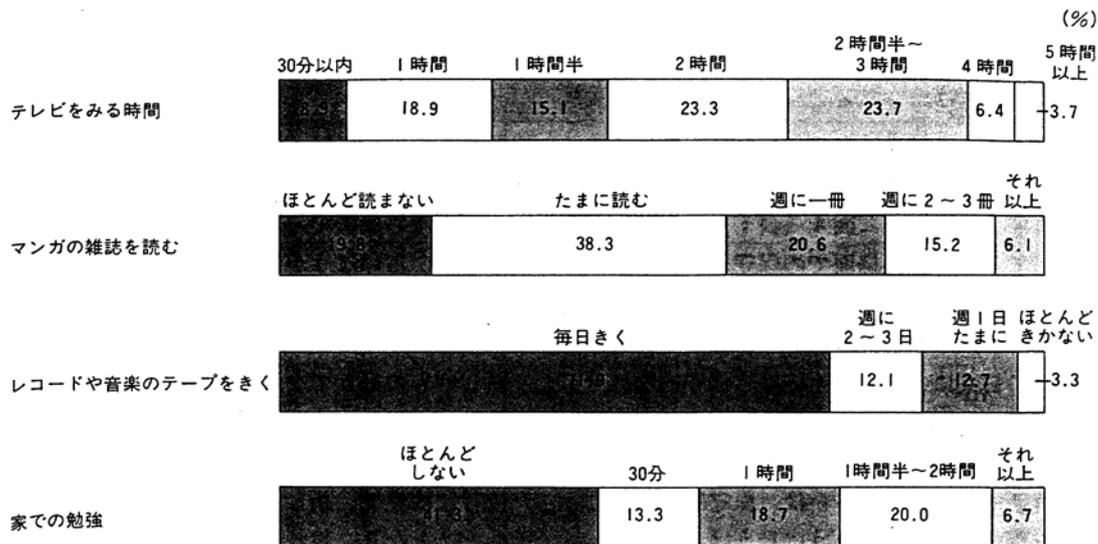


図2 将来の進路

—なんとか進学したい—

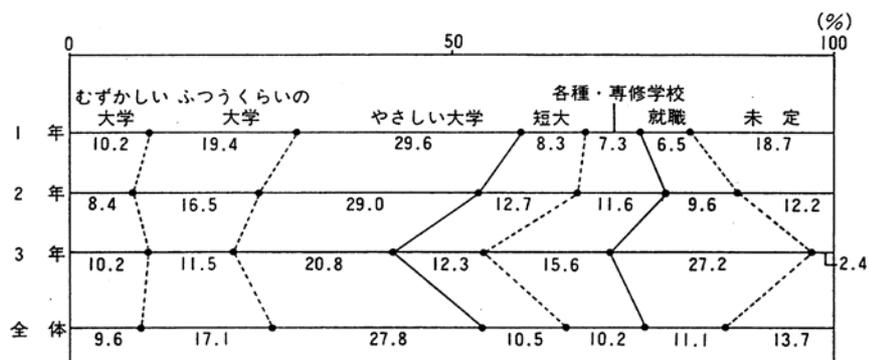
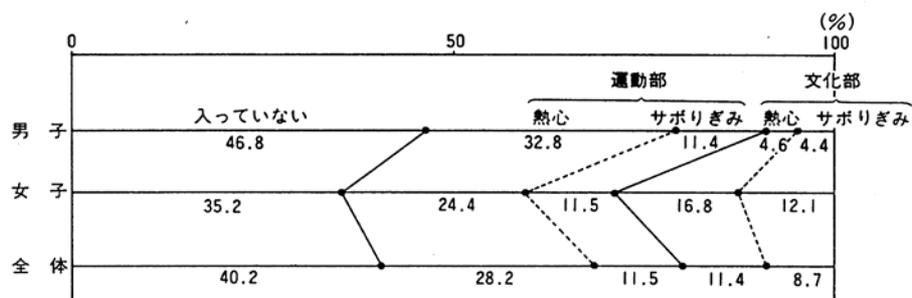


図3 部活動

—入っている生徒が6割—



2. 性格は保守的か

このように、サンプルは、ほぼ標準的な高校生のように見うけられるが、それではこうした生徒たちは、保守化したのか。

まず、生徒たちに図4（表1）の形で、質問してみた。「性格面での保守的」という言葉に、生徒たちがどういうイメージを抱いたのかははっきりしていないが、少なくとも保守的の言葉に、2割の生徒は「保守的な自分」を認め、64.8%も「なんともいえない」と答えている。したがって生徒たちが、少なくとも革新的でない、あるいは、保守的であることを否定していないように見うけられる。

そして、新しいことが好きかについても表

2のように、「とても新しがり」と自分から認めている者は21.9%と2割にとどまっている。もちろんまだ10代もなかばに入ったばかりの人たちなのであるから、レトロブームとはいえ、古いほうが好きということは少ないが、それでも新しさの好きな割合は、「かなり」が28.9%の程度で、多くの生徒は自分は新しいもの好きでない」と答えている。

こうしたデータを手がかりとするだけでも、かつての怒れる若者たち、あるいは、つねに流行に敏感で、新しい文化を作り出す若者たちとことなり、現状維持的な若者像がうかんできると感じる。

図4 自分の性格を保守的と思うか

——保守的でない15%——

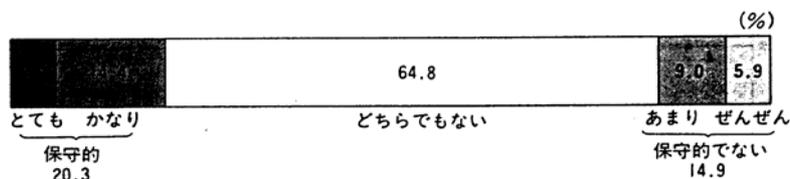


表1 自分の性格を保守的と思うか
 ——少なくとも保守を否定していない——

(%)

		保守的			その他	保守的でない		
		かなり	やや	少し		かなり	やや	少し
性別	男子	7.9	13.7	21.6	61.6	9.3	7.5	16.8
	女子	4.3	15.0	19.3	67.5	8.7	4.5	13.2
学年別	1年生	6.0	12.9	18.9	67.4	8.2	5.5	13.7
	2年生	6.7	15.5	22.2	61.9	9.9	6.0	15.9
	3年生	3.9	16.8	20.7	63.6	9.2	6.5	15.7
進路	むすかしの大学	11.1	14.2	25.3	53.3	9.9	11.5	21.4
	はつろの大学	3.8	19.5	23.3	61.7	10.1	4.9	15.0
	やさしの大学	7.1	13.8	20.9	65.0	7.5	6.6	14.1
	専修学校	6.1	12.3	18.4	64.7	11.5	5.4	16.9
	フリースクール	2.4	13.7	16.1	70.2	8.2	5.5	13.7
マンガ	読まない	6.4	14.4	20.8	60.9	10.5	7.8	18.3
	たまに読む	4.5	14.8	19.3	68.9	7.4	4.4	11.8
	週1冊くらい	5.3	14.2	19.5	64.9	11.0	4.6	15.6
	週2-3冊くらい	5.3	13.6	18.9	66.4	8.1	6.6	14.7
部活	入部していない	5.7	13.0	18.7	65.1	9.6	6.6	16.2
	運動部	6.8	13.9	20.7	65.1	7.8	6.4	14.2
	文化部	5.2	21.3	26.5	62.8	6.2	4.5	10.7
	読書部	3.0	11.8	14.8	68.3	11.8	5.1	16.9
	その他	5.9	14.4	20.3	64.8	9.0	5.9	14.9

表2 新しいことが好きか
—まあ新しいことが好き—

(%)

		新しいことが好き		（つ）	好きでない		
		とても	かなり		あまり	ぜんぜん	
性別	男子	24.7	29.8	37.4	5.2	2.9	
	女子	19.6	28.1		41.4	8.5	2.4
		54.5			8.1		
		47.7			10.9		
学年別	1年	21.2	28.9	41.8	5.5	2.6	
	2年	20.6	30.4		38.4	8.0	2.6
	3年	26.3	25.5		36.0	9.4	2.8
		50.1			8.1		
		51.0			10.6		
		51.8			12.2		
進路	むずかしい大学	32.5	23.4	30.4	7.8	5.9	
	やさしい大学	20.4	27.0		42.4	8.4	1.8
	専修学校	23.8	26.8		42.2	3.8	3.4
		55.9			13.7		
		47.4			10.2		
		50.6			7.2		
全体		21.9	28.9	39.6	7.0	2.6	
		50.8			9.6		

3. 政治に満足しているか

それではそうした生徒たちは、現代の政治をどう感じているのか。図5によると、さすがに「満足している」生徒は11.0%で、4割の生徒は「満足していない」と答えている。したがって、生徒たちは政治のあり方に不満を抱いているように見うけられるが、その中で、「わからない」と答えた者の割合が47.8%と、ほぼ半数を占めるのが注目をひく。「政治に満足しているか」と尋ねられて、半数の生徒が「わからない」と答える。生徒たちにとつ

て、政治はなじみにくい。そうであるから、「わからない」というのであろうが、ここらに若者たちの政治的な無関心さが数字の面にもあらわれている感じがする。

もちろんだからといって、生徒たちは、かならずしも心の底から無関心ともいえないようで、「将来選挙に行くか」について、5～6割の生徒は投票に行くと考えている（図6）。

あらためてふれるまでもなく、投票行動はあくまで投票に行く行為が問題になるのであ

図5 現代の政治に満足しているか
 ——あまり満足していない——

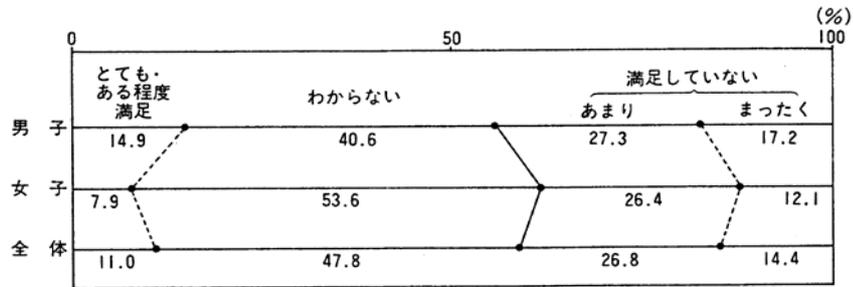


図6 選挙に行くか
 ——たぶん行くつもり——

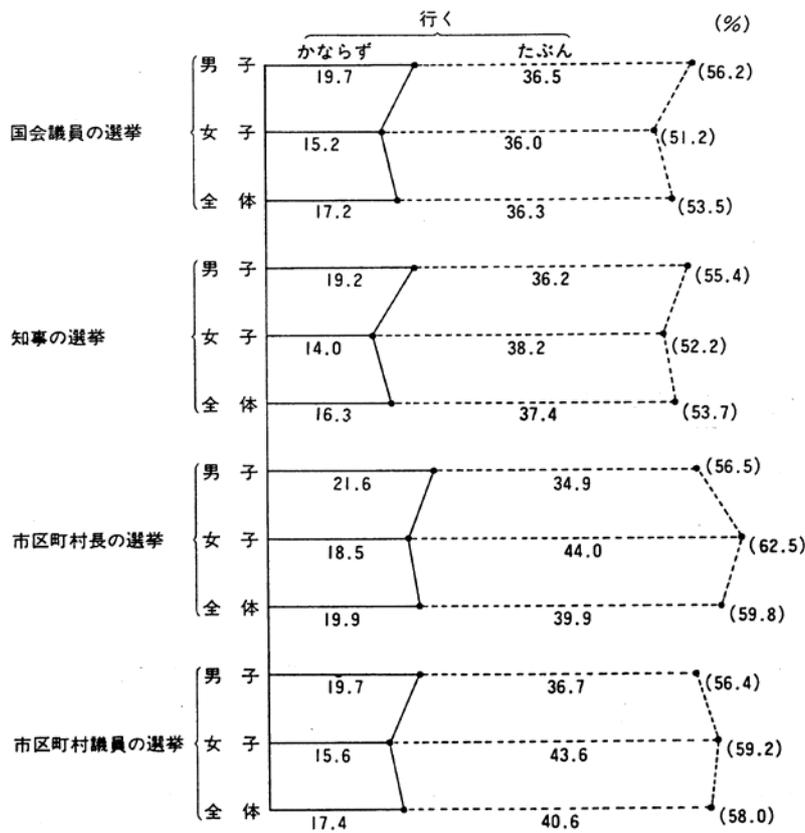
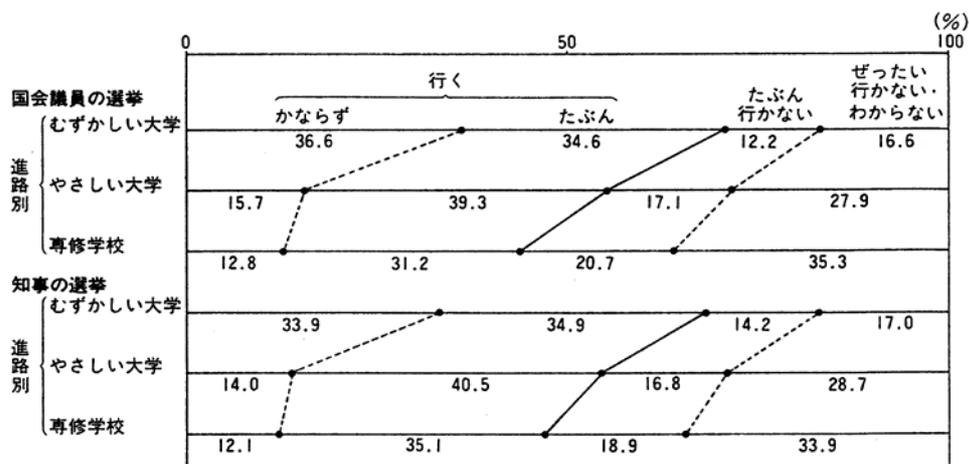


図7 選挙に行くか×進路

——大学進学群は選挙へ行く——



って、投票に行くつもりはあくまで、つもりでしかない。

そして、その「(行く)つもり」でも、その比率が6割程度だと、現実の投票行動はそれをさらに下回ってこよう。しかし図5で政治が「わからない」と答えた者が5割に迫ったことを考えると、投票に行くつもりの高割合は高い。もっともこうした傾向は、今の若者たち流の義務感——いわれたことはする——のあ

らわれで、行くのが望ましいといわれているから行くのであって、それ以外のものではないのかもしれない。

もっとも図7の進路別の属性分析によれば、むずかしい大学への進学を考えているような進学意欲の強い生徒の中に投票に行くつもりという者が多い。したがって、生徒の投票行動への気持ちは、義務感というよりも少し意欲的なものなのかもしれない。

4. 日本をどう見るか

投票行動は、当然のことながら日本の社会をどう見るのかが視野に入っていないと意欲がわいてこない。

そこで生徒たちに、日本の国を、どんな国だと思っているのかを尋ねてみた。くわしくは図8のとおりだが、全体の傾向をまとめると以下のようなだろう。

1 日本のよい部分

- ① 物が豊かだ (82.5%)
- ② 平和な国だと思う (72.4%)
- ③ 日本はよい国だ (58.0%)

2 よくない部分

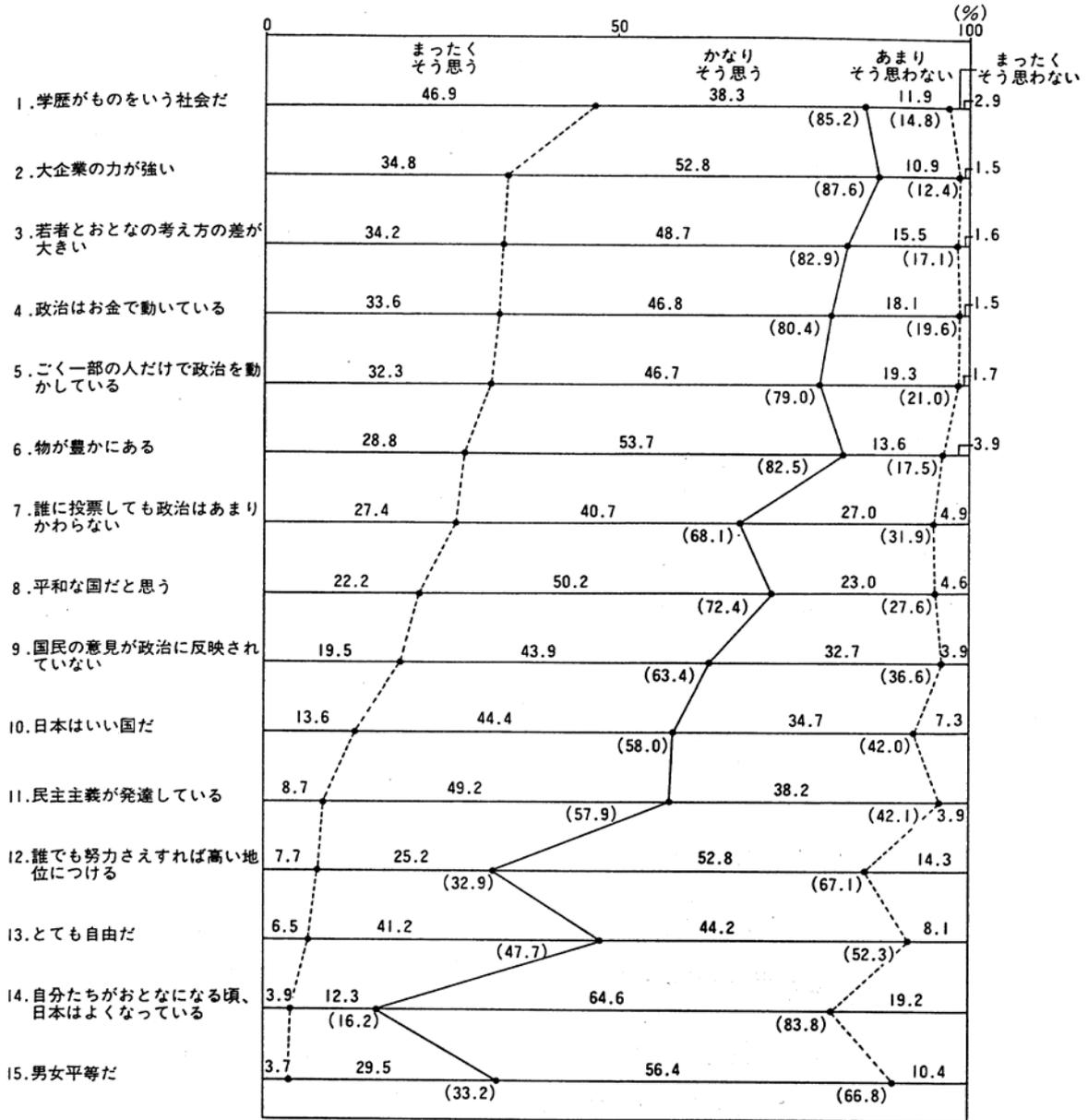
- ① 学歴がものをいう (85.2%)
- ② 政治がお金で動く (80.4%)
- ③ 誰に投票しても、政治は変わらない (68.1%)

3 そして、自分たちにとって

- ① 努力しても、報いられることはない (67.1%)
- ② おとなになる頃、日本はよくなっていると思わない (83.8%)

したがって理想をいえばきりがながい、それなりに日本は悪くない国だと思う。しかし、ひとりで頑張ったくらいでは、日本のよくな

図8 日本はどんな国か
—— 学歴がものをいう社会 ——



い部分を直せそうもない。努力の通じない社会が、残念ながら日本だと思うというのである。若者たちの無力感がうかんでくる。

そして表3によると、日本に対する気持ちは、非進学群より進学群のほうがシャープに抱いているように見える。つまり、社会的な見識を持てるようになると、日本の長所と同時に、短所が目についてくるのであろう。

そして日本の10年後について、生徒たちは

図9のように答えている。不公平な感じや混乱ぶり、そして、平和についても「きっとそうなる」とも思えないが、かといって、「ぜったいそうならない」ともいえない。いわば、未来は不透明だという。

5年先のことがわかりにくい現在なのであるから、10年先ともなると、まじめに考えれば考えるほど、わかりにくいのが当然なのかもしれない。

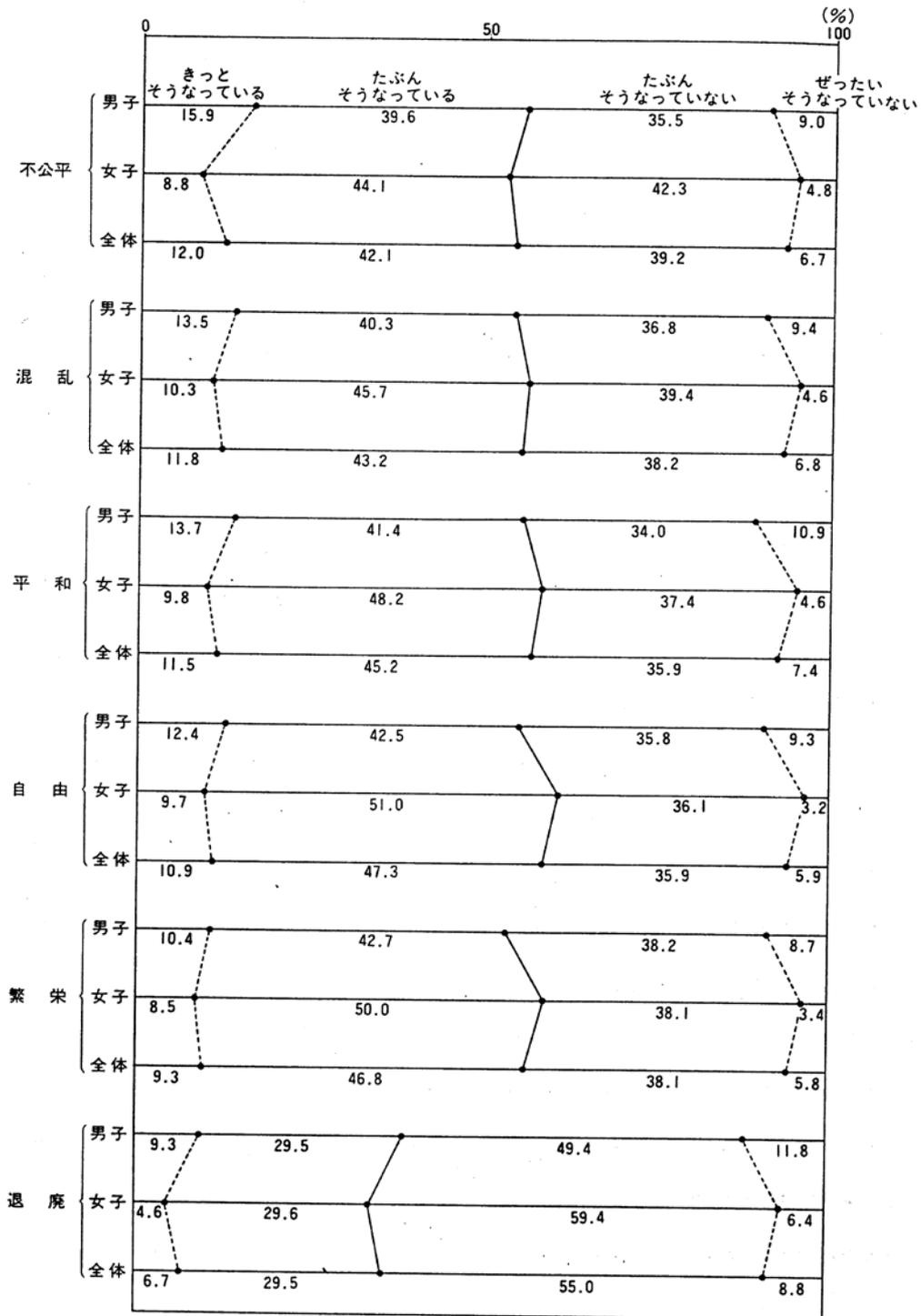
表3 日本はどんな国×進路
— 進学群は日本に否定的 —

	(%)		
	むずかしい大学	やさしい大学	専修学校
1. 学歴がものをいう社会だ	60.6	> 48.9	> 47.0
2. 大企業の力が強い	48.2	> 36.5	> 31.1
3. 若者とおとなの考え方の差が大きい	36.8	> 33.3	< 38.3
4. 政治はお金で動いている	44.5	> 32.0	< 35.5
5. ごく一部の人だけで政治を動かしている	44.1	> 30.7	> 29.3
6. 物が豊かすぎる	39.2	> 24.6	< 30.2
7. 誰に投票しても政治はあまりかわらない	32.7	> 25.9	> 24.2
8. 平和が日本を守る	31.8	> 20.7	< 23.7
9. 国民の意見が政府に反映されていない	27.0	> 19.6	> 18.6
10. 日本は先進国	16.5	> 12.8	< 15.5
11. 日本は世界で最も安全	19.4	> 9.1	> 5.3
12. 日本は世界で最も美しい国	18.9	> 5.7	= 6.0
13. 2. 現政権	13.4	> 6.5	> 5.3
14. 自分たちが住む国は35年以内に破産する	5.9	> 4.3	< 4.5
15. 日本は先進国	9.4	> 4.0	> 2.3

(「まったくそう思う」割合)

図9 10年後の日本

——将来はよくわからない——



5. 10年後の日本

それではもう少し具体的に、10年後の日本像について尋ねると、図10のような結果が得られる。

○変わっていくだろう

- 1 税金が高くなっている (84.5%)
- 2 結婚面での国際化が進む (78.5%)
- 3 自衛隊が巨大になる (66.9%)

○変わらないだろう

- 1 土地の値段が下がることはない (85.9%)
 - 2 学歴社会は解消されない (85.8%)
 - 3 汚職や金権政治はへらない(81.2%)
- こうした見方は属性を超えて(表4)、多くの生徒たちがそう思っているようだが、デー

図10 10年後の日本

——税金は高くなっているだろう——

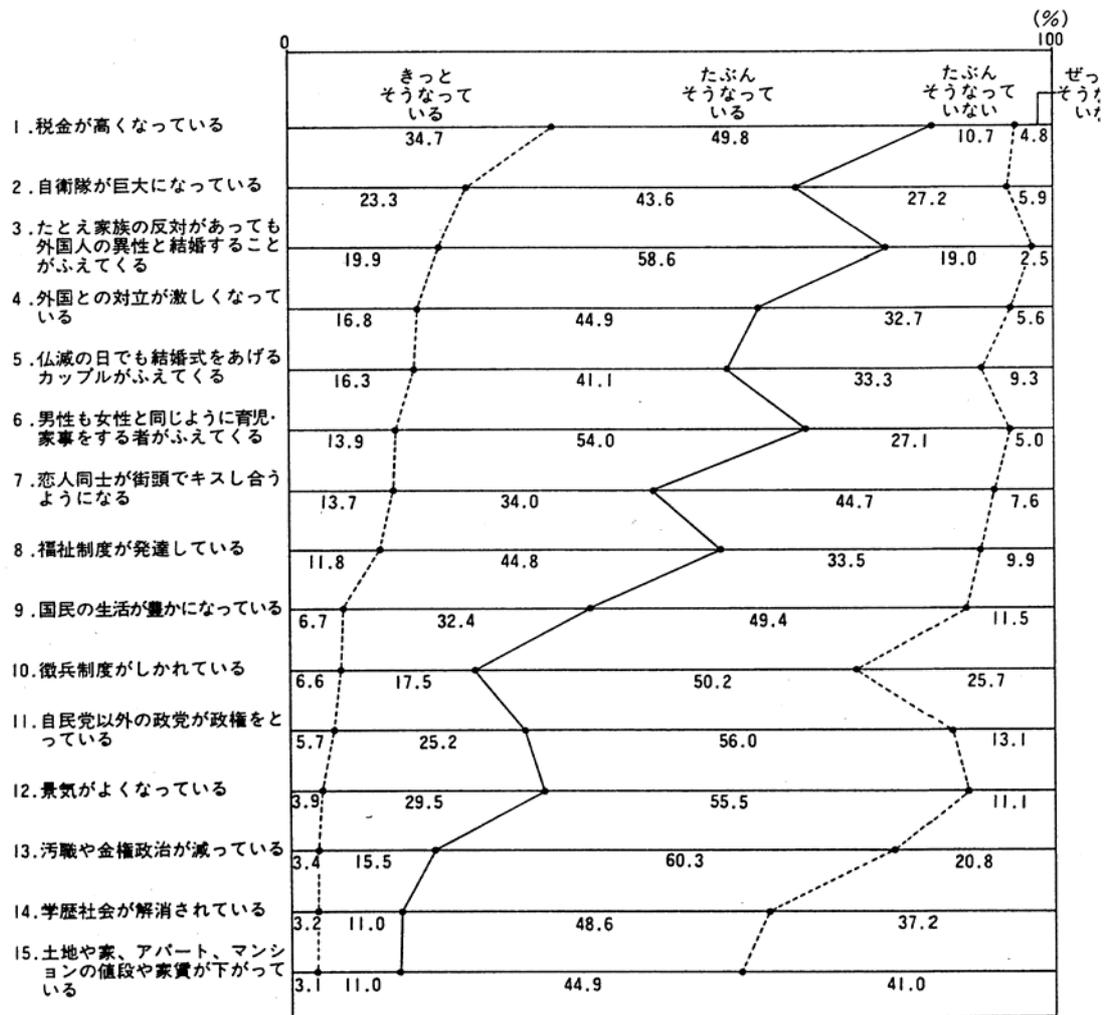


表4 10年後の日本×進路
—あまり変わりはない見通し—

(%)

	とてもむずかしい大学		むずかしい大学		普通学校	
1. 生活が豊かになる	41.3	42.5	31.7	54.5	38.7	40.2
	83.8		86.2		78.9	
2. 自前車が自前にならなくなる	38.4	30.6	23.3	45.1	24.4	42.5
	69.0		68.4		66.9	
3. 少子化対策の効果があって外国人の異性と結婚する人が多くなる	29.2	50.4	18.7	57.5	19.9	60.2
	79.6		76.2		80.1	
4. 外国との距離が近くなる	25.2	40.6	15.6	45.0	24.0	36.5
	65.8		60.6		60.5	
5. 将来の目でもっとお金を貯めることができる	19.8	39.7	17.1	36.2	19.2	41.1
	59.5		53.3		60.3	
6. 男性も女性と同じように育児・家事をする人が多くなる	22.1	47.8	13.7	51.5	15.8	52.3
	69.9		65.2		68.1	
7. 外国人同士が結婚して子供を産む人が多くなる	21.7	32.9	12.6	30.5	15.1	38.1
	54.6		43.1		53.2	
8. 自前車が自前になる	15.0	40.2	11.9	44.9	15.5	42.0
	55.2		56.8		57.5	
9. 国民の生活が豊かになる	9.4	26.4	6.1	34.0	8.3	26.1
	35.8		40.1		34.4	
10. 犯罪率が減る	11.8	16.1	6.4	17.5	8.0	18.8
	27.9		23.9		26.8	
11. 自前車の保有率が減る	10.3	23.4	5.6	26.0	5.0	29.8
	33.7		31.6		34.8	
12. 犯罪が増える	6.3	25.8	4.0	28.5	6.0	27.5
	32.1		32.5		33.5	
13. 自前車の保有率が増える	8.0	15.5	3.4	16.1	4.5	16.6
	23.5		19.5		21.1	
14. 自前車の保有率が減る	5.1	12.6	4.3	9.7	4.5	12.5
	17.7		14.0		17.0	
15. 自前車の保有率が増える	5.5	11.4	3.6	11.1	5.3	9.8
	16.9		14.7		15.1	

「きっと・たぶんそうになっている」割合

タをよく読んでみると、こうした見方は日本の現状をよくつかんだ上での判断で、かなりの的を射ていると言わざるをえない。

生徒たちは政治的に無関心だと述べたが、それなりに社会の動きには心をとめている。少なくともおとなたちも、図10と同じような気持ちを抱いているのではないか。無関心をよそおう心の内に、社会の動きをそっと見つめる生徒たちの心情がみとめられるように思える。

なお、10年後の暮らしについても、はっきりとはいえないが、たぶんひとりぼっちで、無関心な人たちが増加しそうだという（図11、

表5）。

10年後といえば、生徒たちも25～27歳になり、ある者は社会にでて働き始め、ある者は結婚生活に入る頃であろう。その頃の日本について、それほど見通しが明るくないというのである。生徒たちは、自分たちの未来が、あまり開かれていないのを予想して、高校生活を送っているのであろうか。

それと同時に、日本は悪い国ではないが、かといって悪い部分はひとりひとりの努力では直らないから、悪い部分が拡大されていくだろうと思っている。そうした無力感がデータの間から顔をのぞかせているのを感じる。

図11 10年後の暮らし

— 孤独な暮らしは続く —

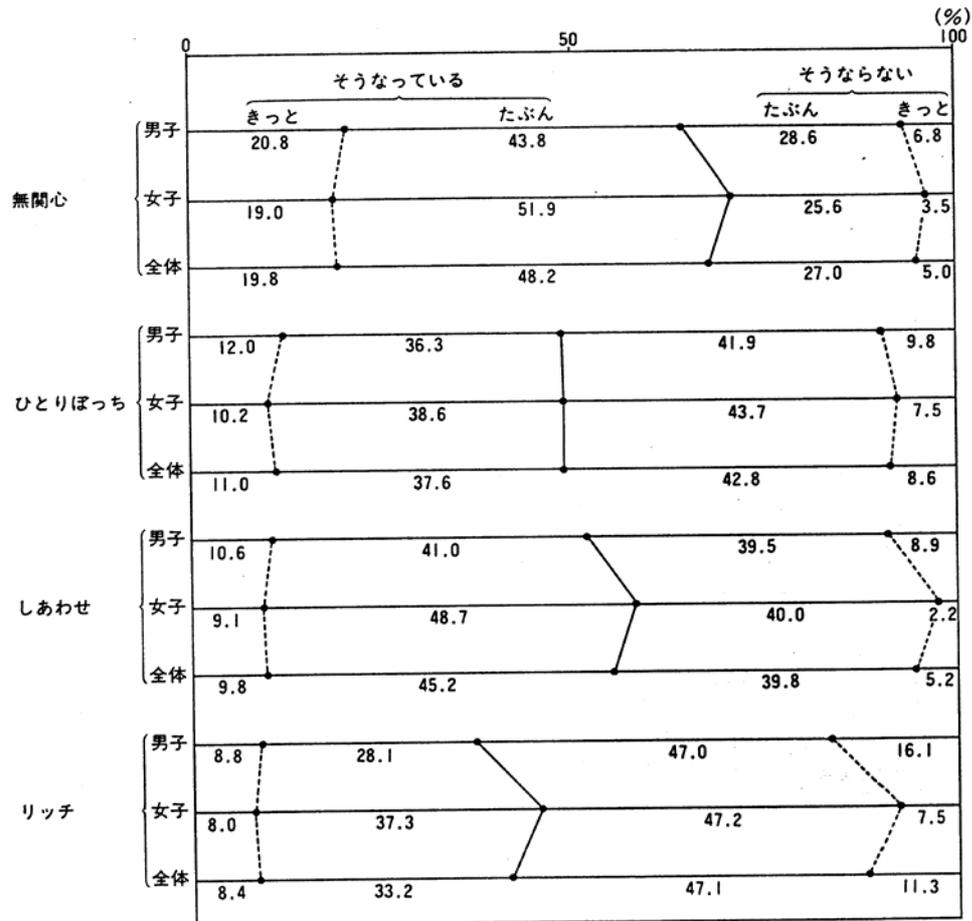


表5 これからの生き方×類型

—属性の開きは少ない—

(%)

		学 歴			部 活 動				ア ン ケ ー			
		短大	大卒	博士	文化	運動部	文化	学生	読書	旅行	趣味	その他
ひとりで暮らす	男	29.6	21.4	17.8	19.9	17.3	21.0	21.0	22.1	19.2	15.3	20.0
	女	39.6	48.1	43.6	47.8	47.4	51.9	45.0	46.7	49.5	52.5	45.4
	小計	69.2	69.5	> 61.4	67.7	64.7	72.9	66.0	68.8	68.7	67.8	65.4
家族と暮らす	男	12.0	14.1	11.8	10.3	9.8	13.5	12.7	11.7	9.7	7.9	13.2
	女	41.0	36.8	32.3	37.4	34.8	41.1	37.0	39.2	37.4	40.0	34.4
	小計	53.0	50.9	> 44.1	47.7	44.6	54.6	49.7	50.9	47.1	47.9	47.6
しあわせな暮らし	男	10.0	9.5	10.6	9.5	11.5	7.5	11.0	10.9	9.8	7.0	10.0
	女	43.0	46.0	41.8	44.4	45.9	43.4	44.3	42.3	46.7	49.3	44.6
	小計	53.0	55.5	> 52.4	53.9	57.4	50.9	55.3	53.2	56.5	56.3	54.6
みんなが幸せな暮らし	男	10.0	8.1	11.4	7.5	10.1	5.1	11.7	8.3	7.8	7.7	9.7
	女	29.9	33.0	28.8	33.7	31.9	38.2	26.7	33.1	34.4	34.4	33.2
	小計	39.9	41.1	40.2	41.2	42.0	43.3	38.4	41.4	42.2	42.1	42.9

「きつと・たぶんそうになっている」割合

第III章 マスメディアとの接触



1. 世の中のことを知っているか

これまでふれてきたように、生徒たちの社会に対する態度は、ひやかさや無関心をよそおっているものの、それでも予想される以上に、社会について若者らしいシャープな反応を示していた。

マスコミなどをとおして、さまざまな情報が飛びこんでくる。そうだとすると、無関心といっても情報の渦の中にまきこまれざるをえない。そうした状況から、まったくの無知という感じがなくなったのであろう。

そこで、あらためて「社会の動きにくわしい」かどうかを尋ねてみた。表6に結果を示したが、「社会の動きにくわしくない」者は、「まったく」の22.6%に「あまり」48.1%を

含めると、70.7%と7割を越える。したがって、生徒たちが世の中の動きに敏感でない自分を感じているのはたしかのように思える。

もっともすでに紹介したように、政治のことは知らないといいつつも、生徒たちはそれなりに、政治の動きを理解していた。そうした意味からすると、世の中のことも、高校生なりにつかんでいる可能性が強い。

そこで、新聞の政治面や社会面、そして、テレビのニュースなどでふれることの多い21の事柄を示して、どの程度知っているのかを尋ねてみた。

結果は表7のとおりで、「JR」や「非核三原則」「GNP」、そして「サミット」など

をまったく知らないわけではないが、かといってとてもくわしいとはいえない。「少し知っている」程度だという。

高校生たちにとって「売上税」や「地あげ屋」、そして、「円高」はテレビのニュースで知っているといっても、自分たちの生活に直接の影響はあるまい。それだけにそうした知識が少しくらいであるというレベルでもしかたがないように思える。

というより、おとなたちにしても、ビジネスマンなどを除くと、この程度の知識の持ち主が多いのではと思う。したがって表7につ

いて、いくつかの解釈が可能だが、思っていたよりも知っている者の割合が多い印象を受けた。

もっとも表8によると、社会についての知識は、むずかしい大学への入学を志すような進学群は、専修学校へ進む生徒たちよりも世の中のことを知っている割合が多い。

これまでの結果でも、進学群は社会の動きについても関心が強く、日本についてもかなりきちんとした理解のしかたをしていた。そうした態度が、表8のような結果にもあらわれているのであろう。

表6 社会の動きにくわしいか
—あまりくわしくない—

(%)

	くわしい				あまりくわしくない
	とても	かなり	やや	あまり	
1	3.6	5.8	28.5	44.3	17.8
2	1.1	2.5	18.6	51.4	26.4
3	2.2	4.0	21.9	46.5	25.4
4	2.5	3.9	21.5	51.6	20.5
5	1.5	4.1	29.4	46.5	18.5
6	6.7	9.8	37.4	31.1	15.0
7	2.5	4.5	22.3	49.6	21.1
8	1.5	1.9	19.2	51.7	25.7
9	2.2	4.0	23.1	48.1	22.6

表7 言葉や人物を知っているか
—少しは知っている—

(%)

	説明でき ない	少しは 知っている	少しは 知っている	言葉だけは 知っている	聞いた ことがある	知らない
1 総論	26.0	31.1	34.3	6.6	0.9	1.1
2 経済成長	23.9	27.7	38.6	7.2	1.3	1.3
3 公害問題	20.1	24.1	39.5	9.7	3.0	3.6
4 社会保障	18.9	19.2	27.3	19.0	7.6	8.0
5 労働問題	18.9	21.0	44.0	12.1	2.6	1.4
6 財政	17.2	26.2	46.0	7.4	1.8	1.4
7 公害問題	16.8	16.9	43.1	17.2	3.8	2.2
8 GNP	11.9	13.5	25.9	25.1	10.6	13.0
9 公害問題	10.1	17.3	42.3	22.8	5.6	1.9
10 公害問題	10.1	14.6	29.1	18.3	9.5	18.4
11 公害問題	10.1	11.2	32.3	30.3	10.9	5.2
12 公害問題	9.8	13.1	34.0	29.1	10.2	3.8
13 公害問題	9.3	12.6	29.0	18.8	9.9	20.4
14 公害問題	8.5	16.3	35.5	21.5	7.9	10.3
15 公害問題	8.1	15.3	38.1	26.9	8.3	3.3
16 公害問題	7.8	11.3	29.4	25.5	12.9	13.1
17 公害問題	4.7	6.1	16.9	26.3	14.0	32.0
18 公害問題	4.1	4.4	13.2	29.3	17.2	31.8
19 公害問題	3.8	4.6	10.9	20.9	17.7	42.1
20 公害問題	3.0	2.8	7.0	19.0	15.3	52.9
21 公害問題	1.8	2.3	9.4	33.2	24.4	28.9

表8 知っているか×属性

—進学群は知識も多い—

(%)

	進学群			進学群		
	知っている	知らない	不明	知っている	知らない	不明
1 総合職	28.3	>	24.1	37.3	>	27.3 > 25.2
2 事務職	25.1	>	22.8	32.9	>	22.4 = 22.4
3 主任技師	21.2	>	19.2	28.7	>	19.7 > 16.9
4 技師	21.3	>	17.0	31.7	>	17.7 > 13.3
5 技士	21.0	>	17.1	27.6	>	17.6 = 18.0
6 技師	20.4	>	14.6	29.4	>	15.4 = 15.5
7 サブリーダー	19.4	>	14.7	26.0	>	16.1 > 15.4
8 6N	17.0	>	7.8	22.4	>	12.4 > 9.0
9 高卒	12.3	>	8.3	20.0	>	9.8 > 9.1
10 短大卒	12.6	>	8.1	20.8	>	10.5 > 8.7
11 大卒	11.7	>	8.8	19.8	>	11.1 > 4.9
12 サブリーダー	13.3	>	6.9	20.9	>	9.1 > 7.2
13 技師	11.2	>	7.7	16.1	>	9.6 > 5.6
14 高卒	13.5	>	4.5	17.9	>	8.7 > 5.3
15 短大卒	9.9	>	6.6	20.5	>	7.3 = 7.1
16 サブリーダー	9.8	>	6.1	18.2	>	8.4 > 6.1
17 高卒	6.6	>	3.1	10.6	>	5.6 > 1.5
18 技師	5.6	>	2.8	9.1	>	4.2 > 1.1
19 サブリーダー	5.9	>	2.1	11.1	>	4.3 > 2.3
20 高卒	5.0	>	1.4	7.1	>	3.2 > 1.9
21 高卒	2.8	>	1.0	5.5	>	1.5 > 0.8

「人に説明できるくらい知っている」割合

2. 社会を知るのに頼りにするもの

表7～8の「JR、円高、GNP、売上税」などは、いずれもテレビや新聞をにぎわしたテーマだが、生徒たちは情報を伝達するメディアとしてのテレビや新聞の働きをどう理解しているのだろうか。

図12に示したように、生徒たちは世の中の動きを知るのには先生や友人と話をするよりも、テレビをみたり、新聞を読んだりすることが役立つという。

したがって、情報の入手源としてテレビや新聞を評価しているのはたしかだが、生徒たちはそうした情報源にどの程度の信頼を寄せているのであろうか。

図13のプロフィールが示すように、新聞やテレビの情報は頼りになると思っている者が多い。さすがにテレビ時代に育った若者だけあって、テレビは頼りになると信じている。

そこで念のために、「情報を得る」と「頼りになる」との関係をもとめてみると、図14のように生徒たちは世の中の動きについての情報を入手しているのはテレビや新聞で、そしてそうした新聞やテレビの情報は頼りになるという。もちろん頼りになると思っているから、テレビをみたり、新聞を読んでいるのであろうが、いずれにせよ生徒たちの反応の中でマスメディアへの信頼が目につく。

生まれてからずっとテレビがあり、そして、ラジオや新聞にとりかこまれて育ってきた。いわば、マスメディアの中での成長で、マスメディアとの接触についてはそれなりの自信やら判断力を持ってしよう。そうしたところから、マスメディアに対する評価が高まっているのであろう。

図12 社会の動きをどこから得ているのか
— テレビ、そして新聞 —

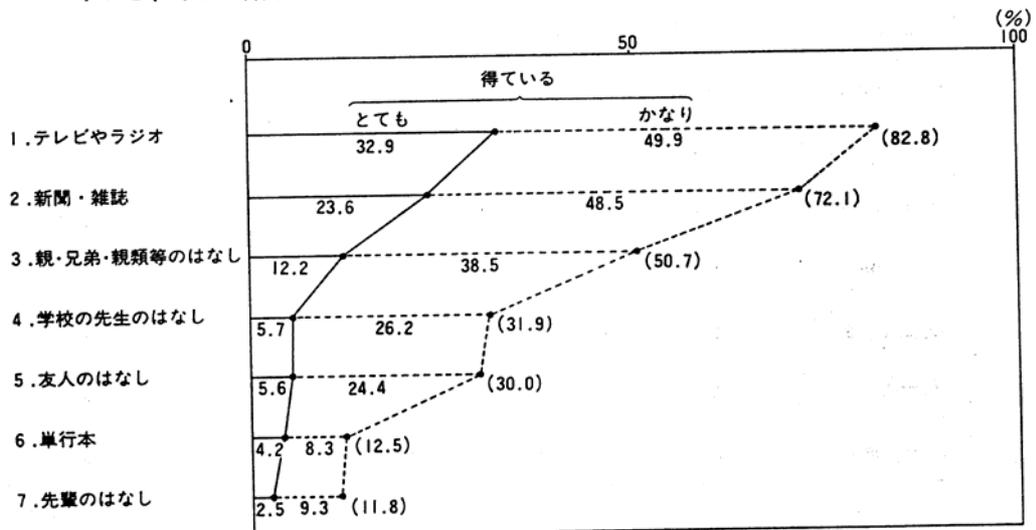


図13 社会の動きを知るのに頼りになるもの

— テレビそして新聞 —

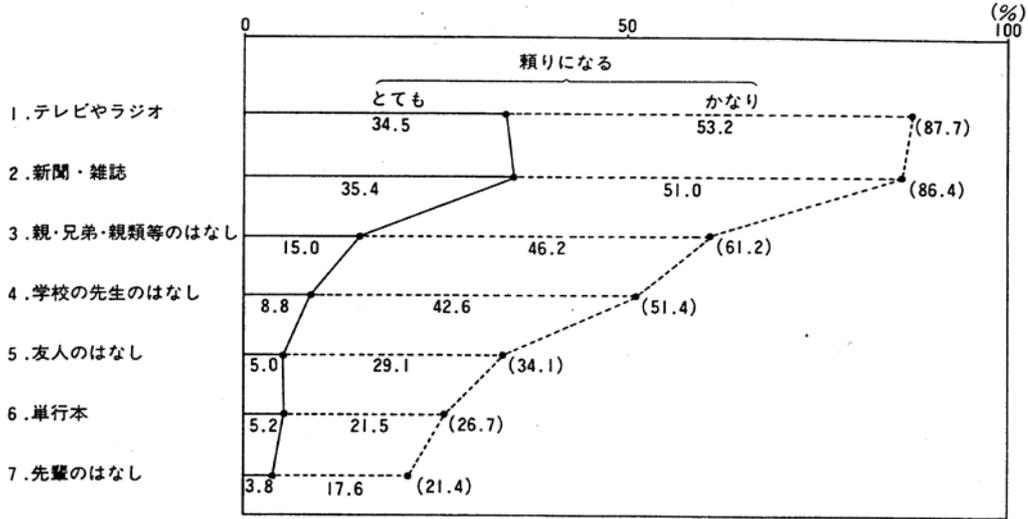
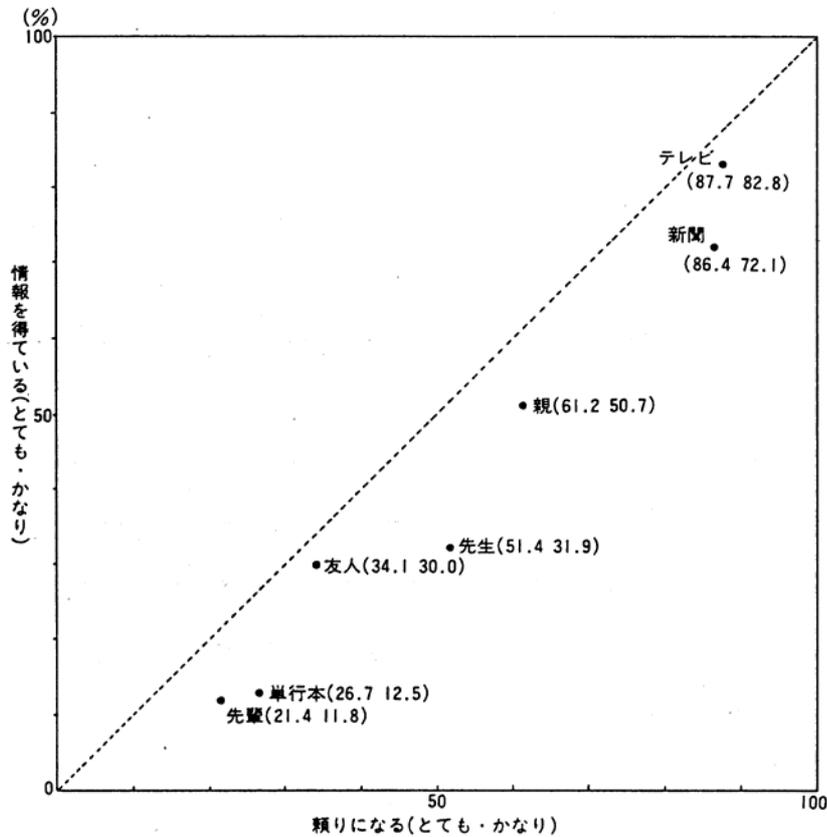


図14 「頼りになる」と「得ている」

— 情報を得ているし、頼りにもなる —



3. テレビについての評価

生徒たちが、テレビや新聞に素朴、あるいは純粹といえるような感じで信頼を寄せていたのは、すでにふれたとおりである。

マスメディアは、ともすると情報を上意下達するワン・ウェイのメディアとなり、フィード・バックする機構を欠きがちになる。それだけに、情報の受けとめ手が単なる受容者でなく、自発的に取捨選択を行い、そして時には、送り手への働きかけをするくらいの力量が求められる。

生徒たちの反応を見ていると、素朴な受容者なのか、それとも主体性を持った利用者なのか気がかりだが、生徒たちのテレビ観を図15(表9)にまとめてみた。

テレビは、「くだらないことに大さわぎを

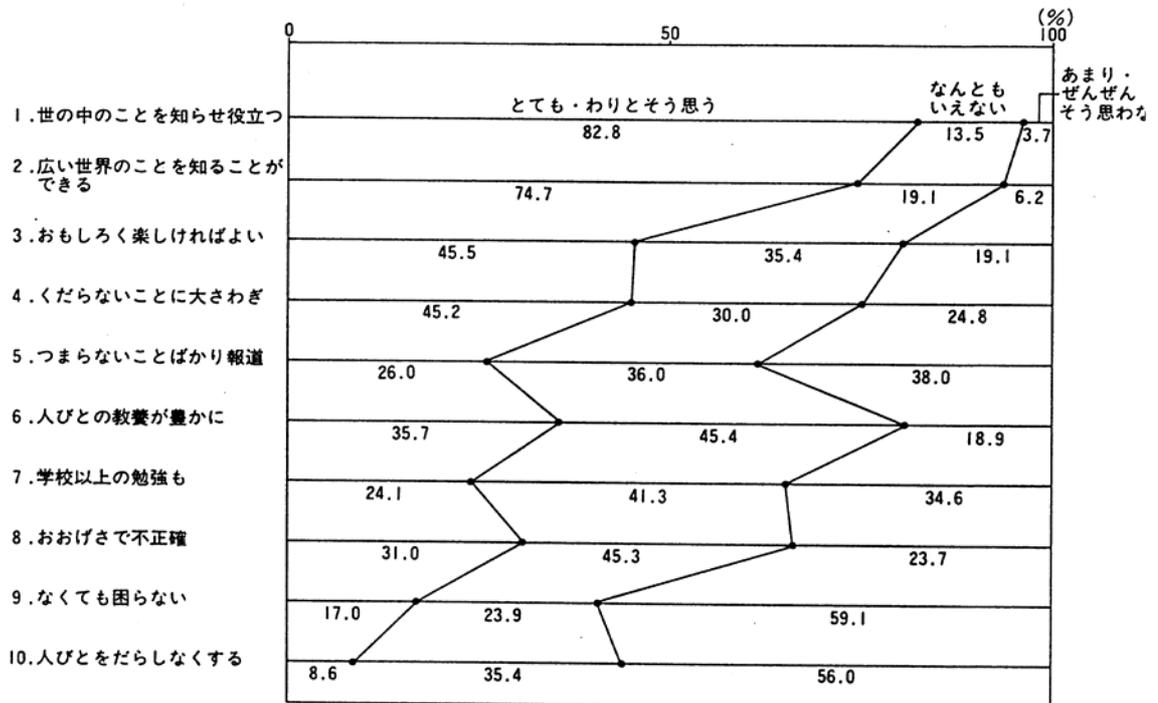
したり」(45.2%)することもあるが、「おもしろく楽しい」(45.5%)。それに「広い世界のことを知ることができる」(74.7%)し、とても「役立つ」(82.8%)という。

これまでの断片的な考察からうかがえたとおりに、テレビの機能を高く評価しているのがわかる。しかも図16によると、テレビに対する信頼はこころもち女子よりも男子のほうが高いが、全体としてみると男女ともに認められ、かなり高い数値が得られている。

さらに表10によると、進路とのクロス集計の結果では、大学進学群のほうがテレビの機能を高く評価する傾向が得られている。もっとも図17に一例を示したように、専修学校への入学を志す層は、テレビは楽しければよい

図15 テレビについての評価

——人びとをスポイルするとは思わない——



と思っているのに対し、進学群の中に、テレビは大さ過ぎすぎると感じている者が目につく。

したがって大づかみにすると、同じテレビメディアに対し、進学群は情報伝達の機能を

評価している。そうした一方、非進学群は娯楽の対象としてテレビを見つめているといえよう。どこかのテレビ局のコピーにあったように「楽しくなければテレビでない」というのが、非進学群のテレビ観なのであろう。

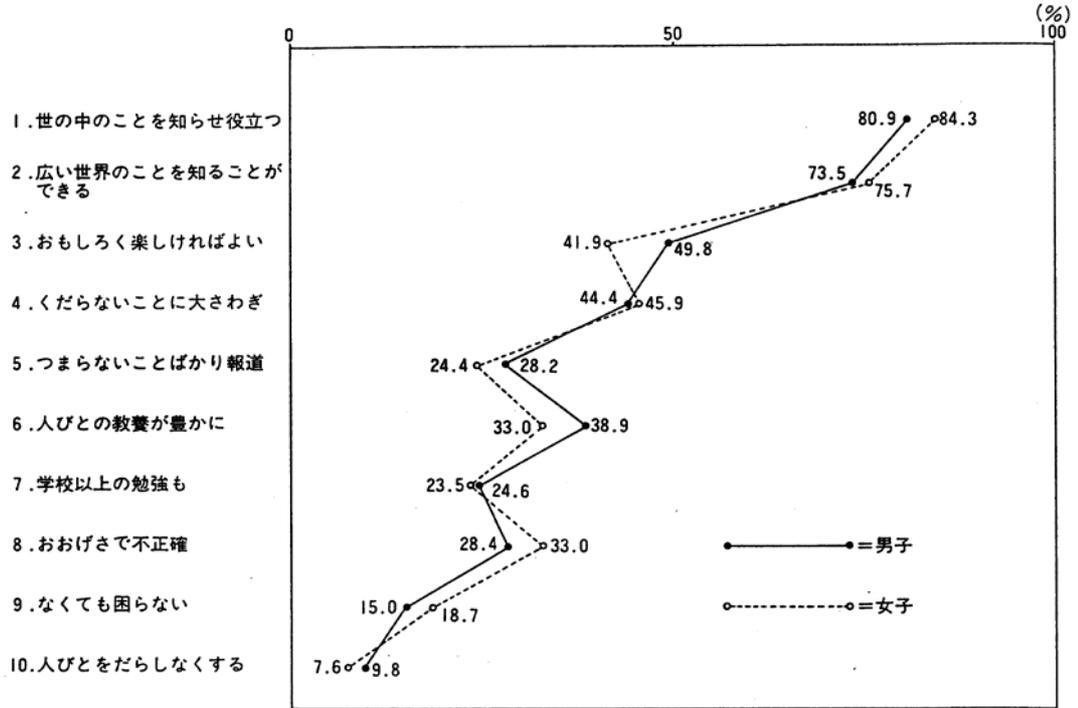
表9 テレビについての評価
——役立つメディアだ——

(%)

	その思うより		なんとも いえない	その思わない	
	とても	わりと		あまり	ぜんぜん
1. 世の中のことを知らせ役立つ	28.0	54.8	13.5	2.8	0.9
	82.8			3.7	
2. 広い世界のことを知ることもできる	26.4	48.3	19.1	4.8	1.4
	74.7			6.2	
3. おもしろく楽しいけれど	17.7	27.8	35.4	15.6	3.5
	45.5			19.1	
4. 楽しくないことには大さ過ぎ	11.3	33.9	30.0	19.7	5.1
	45.2			24.8	
5. すぐさまいじめる人がいる	8.0	18.0	36.0	29.3	8.7
	26.0			38.0	
6. 人の生活がわかる	7.9	27.8	45.4	14.9	4.0
	35.7			18.9	
7. 生活の質がわかる	7.4	16.7	41.3	24.6	10.0
	24.1			34.6	
8. 自分がいじめる	7.0	24.0	45.3	20.1	3.6
	31.0			23.7	
9. 自分がいじめられる	4.0	13.0	23.9	27.0	32.1
	17.0			59.1	
10. 人がいじめられる	1.9	6.7	35.4	39.0	17.0
	8.6			56.0	

図16 テレビについての評価×性差

—男子の方が良い評価—



「とても・わりとそう思う」割合

表10 テレビについての評価×進路

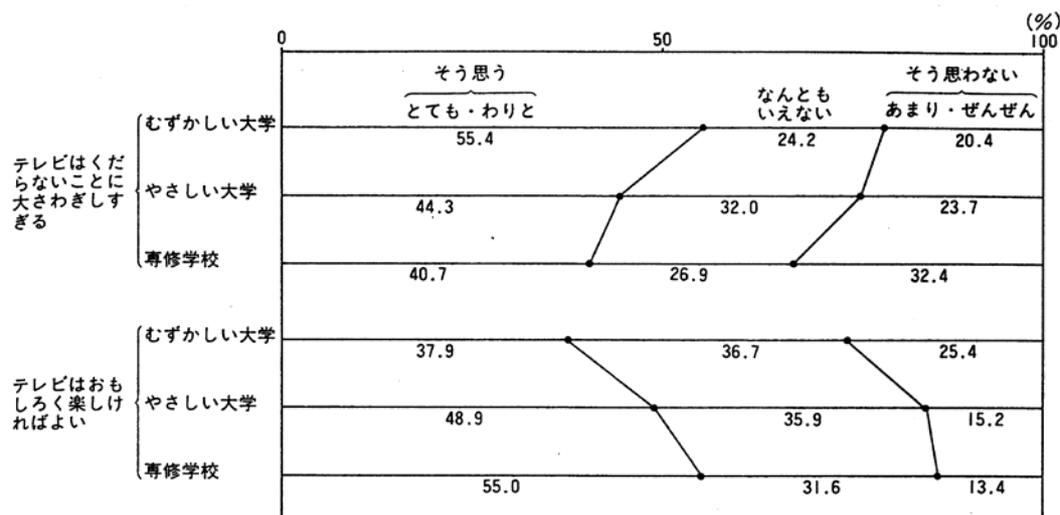
—大学進学群もテレビを肯定的—

項目	大学進学群 (%)	進路不明 (%)	大学進学群 (%)
1. 世の中のことを知らせ役立つ	83.5	=	82.5 = 82.5
2. 広い世界のことを知ることができる	77.6	>	72.4 = 72.0
3. おもしろく楽しければよい	37.9	<	48.9 < 55.0
4. くだらないことに大さわざ	55.4	>	44.3 > 40.7
5. つまらないことばかり報道	41.1	>	24.1 > 22.4
6. 人びとの教養が豊かに	44.7	>	32.7 < 42.4
7. 学校以上の勉強も	39.8	>	19.8 < 30.8
8. おおげさで不正確	33.2	=	31.2 = 32.5
9. なくても困らない	25.8	>	16.2 > 14.1
10. 人びとをだらしなくする	18.3	>	7.5 = 7.2

「とても・わりとそう思う」割合

図17 テレビの評価×進路

——専修学校群は楽しいテレビ派——



4. ナウさとオッサンレーのイメージ

テレビに接しながら社会についての情報入手している生徒たちの姿は、これまでに紹介してきたとおりだが、テレビに登場したりすることの多い人物や事柄に、生徒たちがどのような気持ちを抱いているのかを尋ねてみた。

具体例として表11に示したように、「マドンナ、松任谷由実、土井たか子」などの21の対象に、「ナウい、ブツン、元気印」などのイメージを抱くかどうかを尋ねる形をとることにした。

くわしくは表11(図18)を参照してほしいが、生徒たちの反応は①ナウい、②オッサンレー、③元気印、④最低の4つのカテゴリーに分かれている。

- ① マドンナ=ナウい、そしてオッサンレー
- ② 松任谷由実=オッサンレー、そしてナウい
- ③ ビートたけし=元気印、そしてナウい
- ④ 本田美奈子=最低、そしてブツン
その他、土井たか子は元気印だが最低の部

分もある、あるいは、明石家さんまも元気印で、時にはナウさも持つなどのデータを手にすると、なんとなくそのとおりだという気持ちになる。

生徒たちは、ブラウン管を見つめながら、こうした形で、それぞれの人物についての評価を下しているのであろう。なお、こうしたイメージは生徒たちは属性を超えて共有されているようで、表12の性差についてのクロス集計の結果でも、表13の進路別でも、それほど大きな開きを見いだせなかった。

いずれにせよ、生徒たちが好感を抱いている対象は、オッサンレーでナウいか、元気印かに限られ、この両者は、最低と対称の軸に位置している。つまり、嫌なものはサイテイ、そして、好きなものは毒の有無によって、オッサンレーか元気印かに分けられるという構図である。

生徒たちに、どうして「おニャン子クラブが最低なのか」を尋ねるのは、それこそサイ

表11 さまざまなイメージ

—オシャレなユーマン、最低はおニャン子クラブ—

(%)

	ナフイ	ダカい	ブツン	ネクラ	最低	かつとび	オウんヤ レー	元気印
	(37.6)	6.5	3.2	5.6	3.8	6.6	(21.2)	15.5
	(35.1)	7.6	4.2	1.3	4.5	7.4	15.2	(24.7)
	(32.4)	3.1	7.0	0.9	7.4	13.6	(22.6)	13.0
	(28.7)	5.2	5.0	2.0	8.8	13.9	(18.5)	17.9
	(18.0)	6.5	4.0	18.0	9.0	4.4	(33.3)	6.8
	(24.8)	5.5	2.8	7.7	4.0	3.8	(45.0)	6.4
	(27.3)	6.6	3.2	1.4	4.8	3.6	(36.6)	16.5
	(15.4)	1.4	12.3	1.3	7.4	9.2	9.3	(43.7)
	(14.4)	1.8	13.3	0.8	11.0	10.7	9.3	(38.7)
	13.9	11.6	5.9	0.7	(20.4)	12.5	8.8	(26.2)
	13.7	9.0	4.4	3.2	(22.8)	12.0	3.4	(31.5)
	14.0	11.1	10.3	4.9	(15.5)	13.6	9.6	(21.0)
	11.0	7.4	(23.4)	1.7	(20.6)	20.0	2.7	13.2
	10.5	(22.2)	4.3	(22.0)	18.6	5.9	9.5	7.0
	2.7	12.2	(19.6)	0.6	(52.4)	2.6	1.9	8.0
	6.3	13.8	8.5	5.3	(34.7)	9.9	2.9	(18.6)
	3.9	7.3	(26.2)	0.6	(34.2)	12.7	5.8	9.3
	7.5	(16.1)	10.4	10.4	(32.7)	6.8	5.5	10.6
	7.0	14.8	8.8	(15.5)	(31.1)	7.2	3.8	11.8
	9.1	14.8	7.7	(18.1)	(23.9)	8.0	5.2	13.2
	11.9	18.5	9.2	3.4	(19.9)	(19.9)	9.2	8.0

○ = 最頻値 ○ = 第2位

テイなのであろう。そして、それは元気印やオッサンについてあてはまる。

つまり、論理の問題でなく、情緒的に好き嫌いの判断を下す。そうした態度は本能に、あるいは直観に似たものが含まれているので、かなりシャープで正確な場合も多かろう。しかし、情報に流され、判断を誤る場合も予想

されよう。

フィーリング感覚で生きている者たちに論理を説くのは、サイテイなのだと思うが、論理を教えるのが教育の仕事であらう。表11などを見ながら、あらためて教育の必要性を感じる思いがした。

図18 イメージ

——ビートたけしは元気印——

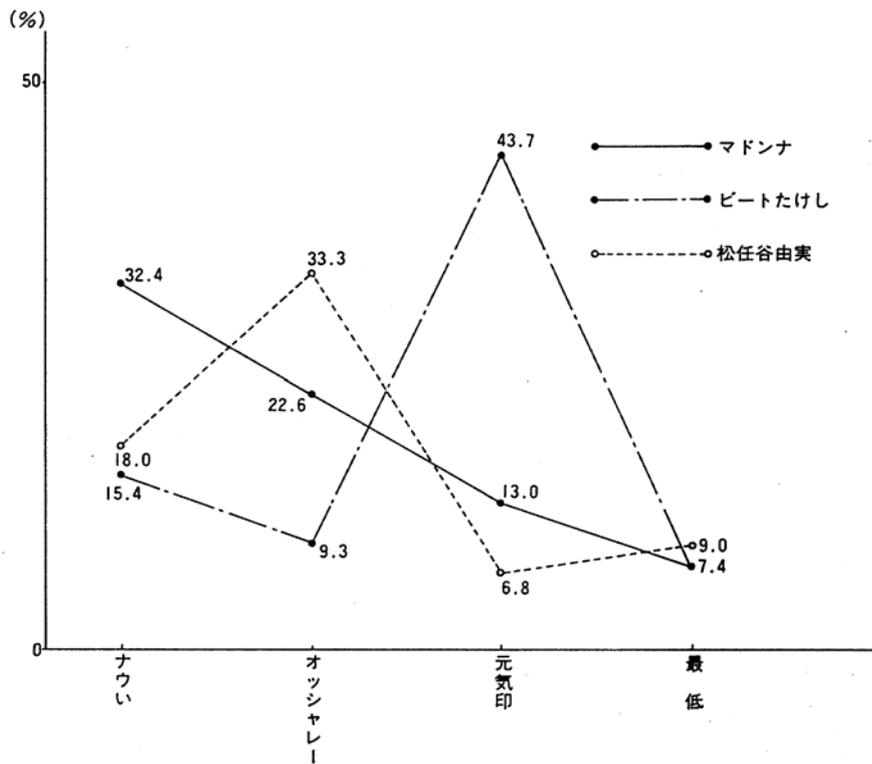


表12 さまざまなイメージ×性差(1位、2位のみ)

—男女の差は少ない—

		ナマリ	カハ	フカフ	シラ	黒色	カシロ	元氣印
1. 元気印	上段	39.6	-	-	-	-	-	16.7
	下段	35.8	-	-	-	-	-	25.0
	上段	38.3	-	-	-	-	-	17.2
	下段	32.5	-	-	-	-	-	31.0
	上段	28.2	-	-	-	-	-	16.4
	下段	35.5	-	-	-	-	-	27.6
	上段	30.9	-	-	-	-	-	17.1
	下段	26.5	-	-	-	-	-	21.2
2. 公田各由美	上段	-	-	-	19.3	-	-	20.2
	下段	18.3	-	-	-	-	-	44.0
	上段	28.9	-	-	-	-	-	35.5
	下段	21.4	-	-	-	-	-	53.0
	上段	25.9	-	-	-	-	-	31.3
	下段	28.4	-	-	-	-	-	40.7
3. 元氣印	上段	18.7	-	-	-	-	-	41.7
	下段	12.7	-	-	-	-	-	45.5
	上段	18.2	-	-	-	-	-	33.8
	下段	-	-	13.1	-	-	-	42.7
	上段	-	-	-	-	28.6	-	18.0
	下段	15.2	-	-	-	-	-	32.8
	上段	-	-	-	-	23.5	-	29.3
	下段	-	-	-	-	22.2	-	33.5
4. 黒色	上段	-	-	-	-	17.5	-	18.8
	下段	-	-	-	-	-	16.6	22.8
5. カシロ	上段	-	-	22.9	-	-	17.0	-
	下段	-	-	23.8	-	24.4	-	-
6. ナマリ	上段	-	21.0	-	-	21.6	-	-
	下段	-	23.4	-	27.1	-	-	-
7. フカフ	上段	-	-	21.8	-	43.5	-	-
	下段	-	-	17.9	-	59.3	-	-
	上段	-	-	-	-	37.3	-	14.8
	下段	-	-	-	-	32.4	-	21.9
	上段	-	-	25.4	-	36.9	-	-
	下段	-	-	26.9	-	32.0	-	-
	上段	-	14.6	-	-	30.6	-	-
	下段	-	17.3	-	-	34.7	-	-
	上段	-	14.0	-	-	30.4	-	-
	下段	-	-	-	19.1	31.9	-	-
	上段	-	-	-	14.8	24.2	-	-
	下段	-	-	-	21.1	22.9	-	-
	上段	-	17.8	-	-	-	22.1	-
	下段	-	18.8	-	-	22.0	-	-

上段=男子 ○=最頻値 ●=第2位
下段=女子

表13 さまざまなイメージ×進路

—進路による開きも少ない—

(%)

			イメージ	進学	就職	進学	最低	かつとひ	進学	進学
		進学	30.1	4.4	8.3	1.3	11.8	14.4	17.0	12.7
		進学	30.7	2.2	7.9	1.0	9.2	12.8	21.8	14.4
		進学	35.5	3.3	4.5	0.8	4.5	13.1	26.9	11.4
松任全由	進学	進学	20.0	6.5	7.0	14.9	10.2	5.6	29.3	6.5
		進学	18.8	6.3	4.0	16.5	10.4	3.6	33.4	7.0
		進学	17.6	9.4	4.7	22.7	8.6	5.6	25.0	6.4
元	進学	進学	13.8	2.7	15.2	1.3	14.7	10.3	8.9	33.1
		進学	16.5	1.5	12.6	2.0	7.8	9.0	7.4	43.2
		進学	17.7	1.2	9.5	1.2	4.5	7.4	10.7	47.8
最	進学	進学	4.2	13.0	20.6	0.8	48.0	2.9	2.1	8.4
		進学	2.6	9.0	19.1	0.7	55.1	3.2	2.0	8.3
		進学	2.0	13.8	20.1	0.4	51.4	2.0	2.0	8.3